



北見の歴史

あれこれ

No.62

田丸 誠

市役所初の 除雪ブルドーザーは？

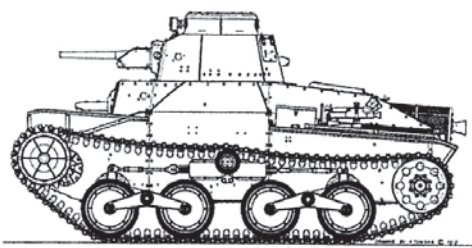
市民の皆様には、新年をお元気で迎えのこととお慶び申し上げます。本年も「あれこれ」と、よろしくお付き合い下さい。

さて、筆者が子供の頃、夜半猛吹雪になると、翌日の臨時休校が楽しみで、早朝期待してNHK放送を聴いている時に、大雪の中を地響きたてて除雪ブルドーザーがやってきて、通行、通学できるように易々と道路を開けていき、何度もガツカリした覚えがあります。今回は、その除雪ブルドーザーのお話です。

ゴム長靴もスコップもなかった明治時代、大雪が降ると開拓民は外に出ないで、家に閉じ籠もるしかありませんでした。屯田兵村では訓練も兼ねて、兵達が隊伍を組んで村内主要道路の雪を踏み固めて、通行できるようにしました。馬が当地に普及すると、馬橋が通って雪の固まった跡が冬の道になりました。一番困るのは冬の火事で、消防組が消火に出動しようとしても、雪に阻まれて現場に直行できないことがあったようです。ブルドーザーなどの機械による除雪は、全く夢みたいな話でした。

戦争中、基地建设に米軍はブルドーザーを大量投入し、日本軍はモッコとツルハシの人力で、その差は歴然でした。当地域にブルドーザーが初登場したのは、敗戦直後に進駐軍が美幌の海軍航空基地破壊に使用した時で、その現場に動員された人達は「これでは日本が負けるのは当然だ。」と実感したそうです。この様に建設機械としてのブルドーザーの実力が一般社会に認められ、戦争で荒廃した国土復興の必要から製造が開始されました。また、敗戦で不要になった多数の戦車は、砲塔などの武装を外してブルドーザーに改造されて、平和利用されました。

当市でブルドーザー導入が検討されたのは、昭和二十五年（一九五〇）で、八月二十四日付『北見新聞』に「積雪の冬に備えて市の交通を円滑にするべく、さきの治安衛生委員会が除雪車ブ



ルドーザーを購入する案が提出」とあり、その必要性が認められ、同月二十二日、交通関係業者、市議会代表、市長、土木課長など十数名が出席して購入方法を検討、市が戦車改造ブルドーザーを購入することを決議して散会しました。しかし、当時のカタログ正価は新車が二百六十万円、戦車改造車が百万円で、市が予算した五、六十万円と相当の差がありました。その後の資料がなく購入決定額は不明ですが、二十五年中に重量七吨の戦車改造ブルドーザー購入を決定し、二十六年一月中に納品予定でしたが、結局、この冬には間に合わなかったようです。

別資料をみると、昭和二十六年七月末現在、北見市内には前掲の市保有ブルドーザー一台と、北見バスには一三屯戦車改造ブルドーザーと別機種のブルドーザーの二台があり、留辺蘂町役場にも一三屯戦車改造ブルドーザーが一台ありました。

市の戦車改造ブルドーザーが初出動したのは、積雪三〇センチの大雪が降った昭和二十七年一月五日で、翌日の『北見新聞』には「午前十一時頃爆音も勇ましくさっそうと市内主要幹線道路の除雪に初御目見得活躍した」とあります。何を改造したか知るために、ブルドーザーの写真を探したのですが、発見できませんでした。重量から推定すると同ブルドーザーは「九五式軽戦車」を改造したもののようです。上は、その戦車の側面図です。

北見バス、留辺蘂町の一三屯ブルドーザーも、重量から見て「九七式中戦車」を改造したものと考えられます。